

# NPO 法人 ピンクリボンながさき便り

第 3 号

2013年1月1日発行  
(年3回発行)

## 新年のご挨拶 理事長 内海文子

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、9月23日に、平戸でピンクリボンフェスタを実施し、多くの皆様にご協力とご賛同を頂きました。感謝申し上げます。当然のことですが、フェスタは開催することが目的ではなく、それを機会に地域の人々が乳がんに対する認識をたかめていただき、早期発見のためのウエーブをおこすことが重要です。平戸市のマンモグラフィ受診率の向上を期待し注目していきたいと思います。

日本人の2人に1人はがんをわずらい、死亡者の30%はがんで命をおとしている時代です。がん対策は日本の医療にとって重要な政策です。

平成18年6月にがん対策基本法が国会で成立し、翌年4月に施行されました。日本のどの地域に住んでいても、がんに対する最高の診療を受けられるようにするために、各県にがん診療連携拠点病院が設置されました。また、患者・ご家族の立場に立って、がん医療に対する不安や信頼できる情報提供が必要であるという声にこたえて、国立がん研究センター（東京築地）にがん対策情報センターが開設されました。だれでもインターネットで情報をうけることができます。また、各県のがん診療連携拠点病院に相談支援センターの設置が義務付けられました。長崎県のがん診療拠点病院は次の5つです。長崎大学医学部附属病院、長崎市立市民病院、日本赤十字原爆病院、長崎医療センター、佐世保総合市民病院。

入院患者だけでなく、がんに関する相談ができますので、大いに利用していきたいものです。

がん対策は、一步一步前進していると思います。がん対策には患者様とその家族の声が一番重要です。様々な思いを個々の胸に閉じ込めることなく、社会に発信していきたいと思います。NPO法人ピンクリボンながさきもその一端を担うことが出来るよう活動していきます。

最後になりましたが、「乳がん体験者の声」は田平町に在住されている今浦ヒロ子さんに登場していただきます。2歳の時、線路で事故にあい、その後乳がんにも罹られました。彼女は生きる強さをもっておられ、会うたびに笑顔と他人を受け入れる心の寛容さに打たれます。

現在もピンクリボンひらど AI.AI.AI.の副会長として活動をされております。辛い思いを乗り越えて、ご自身の体験を執筆していただきました。ありがとうございます。(3頁)

## ミニ知識講座

### インフォームド・コンセント (Informed consent: IC) とは？

患者は自分が受ける医療行為・看護行為について**選択権**を持っているという患者の権利を尊重する考え方である。

医療行為・看護行為を選択するのに適した**複数の選択肢をあげて**、医療従事者（医師）は、患者に**説明**しなければならない。

説明する事項は、病名、治療の目的と内容、複数の治療法とその効果、危険性、起こりえる医学的侵襲の内容や程度、予後、死亡率などである。また、**代替療法や治療はしない選択があるということも認められなければならない**。

# ピンクリボンフェスタ ひらど2012 (報告)

開催日：平成24年9月23日(日)

時間：10:30~15:30

場所：平戸文化センター(大ホール)

来場者数：458名

(一般338名+ボランティア120名)

講演会：『乳がんなんかこわくない!?!』

黒木祥司先生

(黒木クリニック・福岡乳がん患者の会顧問)

乳がん関係：乳がんパネル展示・マンモグラ

フィー無料検診・乳がん細胞診展示・乳がん

自己検診コーナー・専門医による乳がん相談 等

コンサート：平戸市長によるギター演奏

松口ようこさん歌・ピアノ演奏

猶興館高校生によるダンス

保育園児による和太鼓演奏



## ピンクリボンながさき理事長 内海文子

フェスタのために組織した実行委員会で、5月から毎月1回、計5回、18時から20時30分まで実施し企画検討と諸準備をおこなった。関係の諸組織が十分に機能して、アイデアが出され、準備もスムーズに行われ滞りなく開催できた。

平戸市には、もともとピンクリボンひらどAI.AI.AI.がピンクリボン運動を続けておられたことで、関係機関がこの運動に理解と協力を惜しみなく注いでいただいた。

平戸市で初めての企画も多かった。平戸市民によるコンサート、子供たちの絵画展、フリーマーケット、軽食コーナー出店などである。特にコンサートは、黒田平戸市長さんのギターをはじめ松口さんのピアノ演奏と歌、猶興館高校生のダンス、保育園児の和太鼓な

どコンサートで、会場が温かい雰囲気と感動に包まれたことは特質に値するとおもう。

講演の黒木先生は、福岡で長年乳がん患者の治療と精神的援助を続けておられた先生で、たくさんの資料を準備していただき、聴講者によくわかるように説明していただいた。質疑も活発にだされ、講演の成果を上げることができた。

## イベントおよび設置ブース一覧：

1. 総合案内
2. 講演会
3. コンサート
4. 乳がんクイズ
5. 乳がんパネル展示
6. マンモグラフィー無料検診・視触診
7. マンモグラフィー展示
8. 乳がん細胞診展示
9. 乳がん自己検診コーナー
10. 専門医による乳がん相談
11. リンパ浮腫相談
12. 子供達の絵画展
13. 故大山和栄さんのまんが展
14. 乳がん啓発グッズ販売
15. ピンクリボン作成
16. スタンプラリー
17. 情報・図書コーナー

※軽食コーナー、フリーマーケット、託児室なども設置した。



## ～乳がん体験者の声～

### 「生きてなお」

ピンクリボンひらど AI.AI.AI.  
副会長 今浦ヒロ子

近年医学における研究とその成果は目をみはるものがあるが、その昔乳癌手術の大半は全摘、いわゆる乳房の全部をとるとというのが伝説のようにうたわれていた。それが左乳房ともなると、心臓の動きまでがわかる程に剥ぎ取られた胸は、見るも無残というより見るに耐えないのである。

あの手術前夜の病院の風呂舎で、明日は失ってしまう乳房を鏡に写して惜しんだ夜の事は誰が忘れようか！ ポラロイドカメラで上半身ヌードの写真を撮った。「私にもあったのよ」と、その悲痛な心とは裏腹に印画紙に浮かび上がった顔は笑っていた。それを残せた安堵感か、そこから私の心は和らいだのを覚えている。奇しくもそれが四十代の私を写した一枚の記念とも記録ともなっている。

この十数年の内に乳癌手術のほとんど全摘の伝説が覆されてきている。とってもとらなくても再発の危険性は変わりがないというのが今の定説で、この裏でどれだけの人にとらなくていい乳房を失っただろうか。一言で今の現状を語られるとやりきれなくなる事がある。残念ながら私自身の癌は、乳頭からの出血で全摘を免れなかった。そして完璧に手術は成されて私は再び命を得たのである。

インフォームドコンセント、その当時主治医とよく話し合いをした。他でもなく私は再手術の宣告を受けたのである。再発の可能性とその後に出てくる症状と、しかし「先生私のデータはこれからです」と月末からの仕事を言い訳に退院してきた。私自身「精神的には病まなくて全て身体にくるんだナ」と、「これで清算した」と受けとめてきた。

十四年後異変に気づいた私は「もうこれ以上とられたくない」という思いが、自己診断もいいところで、あらゆる良いというもの、効くというものをとり入れていった。通常は病院へ行くはずのところ「とられたくない」の一心からやみくもに反対の方向へと私を走らせたのである。その頃から私は携帯で右乳房の癌の進捗状況を記録し始めた。癌は又しても温存でも切除を免れない乳輪の部位に現

れて私を苦しめた。大きくなっていく様は癌の無気味さを呈して「もう、これ以上とられたくない！」「この部分（患部）だけの切除って有？」と私は混乱していた。しかしその実そこに医師の決定的な言葉をまさぐっていた。「あなたは癌に罹っていますよ」「これは癌です」と、私は問いかけた「これは癌ですか」、しかし「癌でないかも知れない」という言葉に、針を突き差してでも癌を証明して欲しかった。「とってしまったらお終い、お終いなんです先生」この悲痛な叫びは届かなかった。

命より大事なのかと友は癌を恐れて何度も問いつめた。私は惜しんだのである。結婚をしていない私は子供に乳をふくませた事がなく、子供のために一度でも乳首を吸わせたのなら、使い切ったおっぱいなら明日にでも切り取っても構わないと思った。悲しいかな、そうでない私はこの乳房をとられる事を惜しんだのである。1年を経過し乳房は醜く変形して口を開けた患部からは、炭素化したような固い異物がコロコロととれていた。

セカンドオピニオンで女性の医師を頼った私はそこで癌だと告げられた。医師から「癌」と告げられて妙に納得した。そして私の頑張りもこれまでと思った。そして私は左右両の乳房を失ったのである。私にこんな人生が待ち受けていたとは、文字通り胸をえぐられるような人生、乳房すなわち女性ではないか、私は女を棄てようと思った。紅も塗るまい、自らも否定しよう、我を忘れる日々が始まった。この悲しみは何をもって埋めたらいいのだろうか。

しかし私は生きている。私は二歳の時、当時町役場に勤めていた父の後追いをして踏切で転んでしまい、SL 蒸気機関車が私の頭の上を通過するという経験をしている。レールの上に乗っていた両手の指八本と片足先の方切断という比較的軽いケガですんだ。その時も私は命拾いをして、「命」とは「生きていること」とはと随分考えさせられる事があった。

生きてなお、その人の成すべき事は何であろう、全てに偶然は無く、意味があるという。

今、私は地元の障害者団体の事務局として今年二十二年目の冬を歩いている。

○田平町身体障害者福祉協会  
副会長・事務局

○障害者支援施設草笛が丘  
年金管理委員会・事務局

## イベント案内



### ■「看護の日 ザ!いさはや!」ブース出展

期 日：平成 24 年 5 月 19 日(土)11 時～16 時  
場 所：諫早文化会館（諫早市）  
参加者：60名  
内 容：ブース出展会場は「看護の日」会場と同じフロア1階で展示ブースが行われた。ブース展示の流れの中で、パネルによる説明を受け、乳房モデルによる自己検診の体験を行う等の啓発を実施。



### ■「みなとまつり」ブース出展

期 日：平成 24 年 7 月 29 日(日)9 時～17 時  
場 所：水辺の森公園（長崎市）  
主催者：長崎市みなとまつり実行委員会  
参加者：200名  
内 容：ブース出展。パネルで乳がんについて説明、乳房モデルで体験、自己検診の啓発実施。

### ■「夏越まつり」参加

期 日：平成 24 年 8 月 3 日(日)19 時～22 時  
場 所：大村市街地（大村市）  
主催者：大村市夏越まつり実行委員会  
参 加：大村市国保けんこう課と一緒に参加  
内 容：ピンクリボンののぼりを掲げ、大村音頭の踊りでアピール。



### ■「健康・福祉まつり」ブース出展

期 日：平成 24 年 10 月 28 日(日)  
場 所：シーハットおおむら（大村市）  
主催者：大村市役所国保けんこう課  
参加者：50名  
内 容：乳がんパネルにて説明。乳房モデルにて自己検診法の実施。長崎県がん広報紙、ピンクリボンながさき広報誌を配布。



## Information

### 会員の皆さまへ

- 会員の皆様からご意見や記事を募集しています。
- 賛助会員を募集しています。  
寄附1000円以上をお寄せいただいた方には、ピンクリボンながさきのピンを差し上げております。



家族愛、乳房愛、夫婦愛の3色を表しています。その3色で中央がハート形になって愛を表しています。

ピンクリボンながさきのバッジ

### 編集後記

発行は年3回を予定しています。紙面の充実とホームページの更新も頑張っています。



マンモグラフィ検診を受けましょう  
～あなたとあなたの家族のために～

NPO 法人ピンクリボンながさき

〒856-0045

長崎県大村市向木場町1799

TEL・FAX：0957-47-8595

メール：n-pinkribbon@oboe.ocn.ne.jp

URL：http://pinkribbon-nagasaki.jp/